

# 蚊（ヤブカ）に御注意！

最近、ブラジルにおいて小頭症の新生児が増えており、ジカウイルスの感染が関連しているのではないかと考えられています。また、2014年夏、我が国で70年ぶりにデング熱が流行しました。これらの感染症を予防するためには、ヤブカの発生を抑えるとともに、ヤブカに刺されないようにすることが大切です。

ジカウイルス感染症・デング熱の性状（2016年6月13日現在）

	ジカウイルス感染症	デング熱
症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感など。</li> <li>✓ 潜伏期間は2～12日（多くは2～7日）</li> <li>✓ 80%は感染しても症状が出ない。</li> <li>✓ 妊婦が感染すると胎児に感染することがあり、小頭症などの先天性障害を起こす可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 突然の発熱、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛、発疹など。</li> <li>✓ 潜伏期間は2～15日（多くは3～7日）</li> <li>✓ 感染しても発疹しないことも多くみられる。</li> <li>✓ ごくまれに重症化し、出血症状となり、適切な治療がなされないと、致命的な病態になる。</li> </ul>
流行地	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ アフリカ、中南米、アジア太平洋地域</li> <li>✓ 特に、近年は中南米で流行が拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 熱帯や亜熱帯の全域</li> </ul>
媒介蚊	ネッタイシマカ（国内に生息しない）・ヒトスジシマカ（国内に生息）	
国内発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海外の流行地で感染し、国内で発症した患者は9名</li> <li>✓ 日本国内で感染した患者なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海外の流行地で感染し、国内で発症した患者は毎年200名前後</li> <li>✓ 2014年、東京都立代々木公園に関連する患者160名の報告</li> </ul>
治療薬	特有の治療薬はなく、対症療法（予後は比較的良好）	
ワクチン	開発されていない。	

## どのようにして感染するのですか？

デング熱とジカウイルス感染症いずれも、ウイルスに感染した人の血を吸ったヤブカ（ヒトスジシマカやネッタイシマカ）が体内でウイルスを増やし、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を広げていきます。



## 国内でジカウイルスに感染することはありますか？

ウイルスを媒介する蚊の一つヒトスジシマカは、日本のほとんどの地域に生息しており、岐阜県内においても、すべての地域で生息を確認しています。

国内でジカウイルスに感染した報告はありませんが、流行地でウイルスに感染した人（日本人帰国者や外国人旅行者）が国内でヒトスジシマカに刺され、そのヒトスジシマカが他の人の血を吸えば、感染する可能性があります。

## 流行地で蚊に刺されたらどうすればよいですか？

すべての蚊がウイルスを保有している訳ではないので、蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありません。心配な方や発熱等の症状のある方は、帰国された際に、検疫所でご相談ください。また、帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所にご相談ください。

## 流行地からの帰国後の性行為について

ジカウイルス感染症は、性行為により男性から女性パートナーへ感染するリスクが指摘されています。ジカウイルス感染症の流行地から帰国した男性は、症状の有無に関わらず、最低8週間（パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中）は性行為の際にコンドームを使用するか性行為を自粛することが推奨されます。また、流行地から帰国した女性は、帰国後最低4週間は妊娠を控えることが推奨されます。

## 妊婦と妊娠の可能性がある女性へ

妊婦や妊娠の可能性がある方は、ジカウイルス感染症の流行地への渡航を控えたほうがよいとされています。

## どのように予防すればよいですか？

ヤブカは日中活動し、ヤブや木陰などでよく刺されます。その時間帯に屋外で活動する場合には、できるだけ肌の露出を少なくし、虫よけ剤を使用します。

日中屋外で活動する時は・・・



【情報提供】岐阜県保健環境研究所

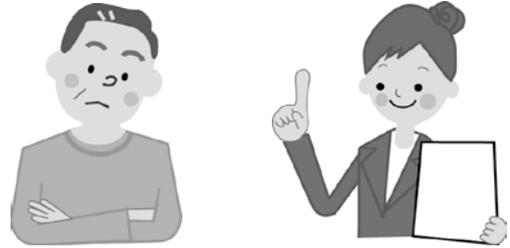
【お問い合わせ先】揖斐川保健センター Tel 23-1511

## 揖斐川町国民健康保険に加入の40歳～74歳の皆さんへ 特定健康診査を受けましたか？

### 「忙しくて、健診を受ける暇がない」という方へ

忙しくしてられるのも、健康だからこそです！

もし、病気になって長期療養が必要になってしまったら、あなたの周りにいるたくさんの人に迷惑をかけることになるかもしれません。健康で忙しく働いている今こそ、健診を受けていただきたいと思います。



### 「健診を受けに行くのが面倒くさい」という方へ

病気になってしまったら、もっと面倒くさいです！

治療のために通院や服薬が必要になったり、もしかしたら入院が必要になるかもしれません。「元気な時に、健診を受けていればよかった！」と後悔しないよう、さっそく健診を受けに行きましょう。

### 「健康に自信があるから、受けない」という方へ

知らないうちに、  
病気が進行しているかもしれません！

高血圧や糖尿病といった生活習慣病は、はじめはまったく自覚症状がなく、気付いた時には悪化しているケースも少なくありません。健康に自信がある方こそ、病気の早期発見のために健診を受けに行きましょう。

### 「受けないと何か問題でもあるの？」という方へ

あなた自身の健康状態がわからないだけでなく、  
保険料の増減にも関わってきます！

特定健康診査や特定保健指導には目標があり、その達成率は今後の後期高齢者医療制度への支援金の額に反映します。つまり、皆さんが支払う保険料（税/掛け金）の増減に影響してくるのです。

### 「お金がないから…」という方へ

健診は、一番お得な健康管理の方法なんです！

特定健康診査は、自己負担1,000円で受けられます。具合が悪くなってから病院に行く費用や時間と比べたら、健診の費用やかかる時間の方がはるかに少ないのです。また、病気になって今のように働けなくなると、収入も減ってしまうかもしれません。

特定健康診査の受診期間は、**7月30日(土)**までです！

まだ受診していない方は、健診案内に同封されている医療機関で受診してください。

#### ▶ 健診を受診した後は、医療機関に健診結果を貰いに行きましょう！

健診を受診するだけでなく、健診結果を知ることが、健康の保持増進や病気の早期発見につながります。

#### ▶ 人間ドックや勤務先の健診を受診される方へ

パート先の健診や人間ドックを受診される場合、揖斐川町の特定健康診査を受診する必要はありません。健診結果のコピーを保健センターに提出すると、揖斐川町の特定健康診査を受診したことになりますので、ぜひご協力ください。なお、健診の結果、保健指導が必要な場合は、後日ご案内を送付します。

【お問い合わせ】 揖斐川保健センター TEL 23-1511

# 75歳以上（後期高齢者医療被保険者）の皆さんへ ぎふすこやか健康診査・ぎふさわやか健診

毎日健やかな生活を送るためにも、健診を受けて、病気の早期発見・予防に努めましょう

## ぎふすこやか健康診査

受診はお済みですか？  
実施期間は6月30日(木)までです！

【目的】病気の早期発見、重症化予防

【対象】後期高齢者医療被保険者  
(75歳以上の方)

【検査項目】問診、身体計測、身体診察、血圧測定、  
血液検査、尿検査

※医師が必要と認めた方のみ、心電図検査を行います。

【自己負担】500円

【実施期間】平成28年6月1日(水)  
～平成28年6月30日(木)

※昭和16年5月1日から昭和16年7月31日に生まれた方は9月実施になります。

## ぎふさわやか健診 (後期高齢者口腔健康診査)

【目的】口腔機能低下や肺炎などの疾病予防

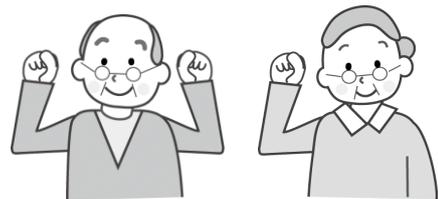
【対象】後期高齢者医療被保険者  
(75歳以上の方)

※ぎふすこやか健診の案内と一緒に通知します。

【検査項目】問診、歯の状態、咀嚼<sup>そしゃく</sup>能力、舌機能、  
嚥下<sup>えんげ</sup>機能

【自己負担】200円

【実施期間】平成28年6月1日(水)  
～平成29年3月31日(金)



▶ 介護認定を受けている方には案内を通知していません。

健診を希望される方は、揖斐川保健センターまでお問い合わせください。

【お問い合わせ】揖斐川町役場 住民課 TEL22-2111  
揖斐川保健センター TEL23-1511

## 酒害の相談会

アルコール依存で悩んでいる方の相談会を行います。

相談は無料、申込みは不要です。

【日程】7月6日(水)

8月3日(水)

9月7日(水)

【時間】19時～21時

【場所】大垣市総合福祉会館

【相談内容】アルコール依存に関することや家族の方の相談

【お問い合わせ】

岐阜県精神保健福祉センター  
TEL058・231・9724

7月は「愛の血液助け合い月間」  
届けようそのやさしさを 献血で

全国的に少子高齢化が一層進む中、献血を支える若年人口が減少し、逆に輸血を必要とする高齢者人口が増加しています。

このため、今後の血液需要は増加することが予想されます。献血は、尊い生命と健康を守るために、大切な役割を担っています。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

けんけっちゃん

